

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 28日から29日にかけて、前線を伴った低気圧が日本海からサハリン付近へ進む。
- 30日は、高気圧が東シナ海へ進み、前線が日本の東から日本の南へと伸びる。
- 31日は、日本の東の高気圧が日本海へ張り出し、前線が日本のはるか東から日本の南へと伸びる。
- 6月1日は、熱帯じょう乱が日本の南を北上する。

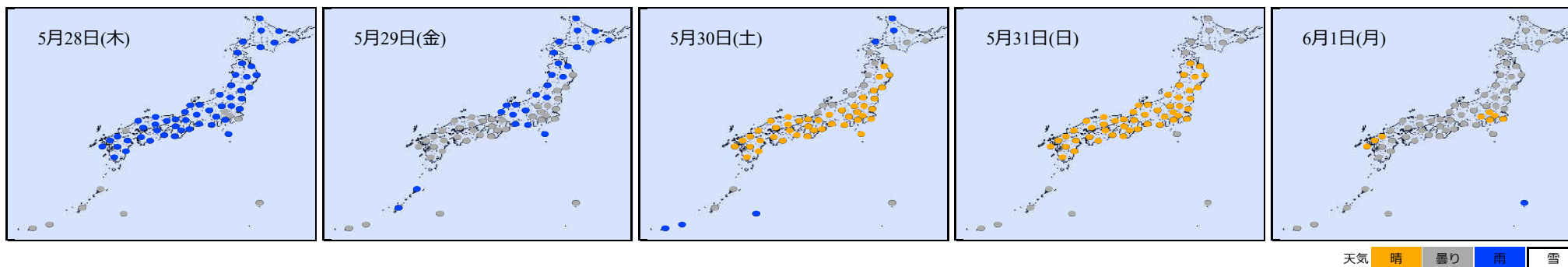
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 28日にかけて、西日本では、前線の活動の程度によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 29日は、北日本では、低気圧の発達程度等によっては、大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

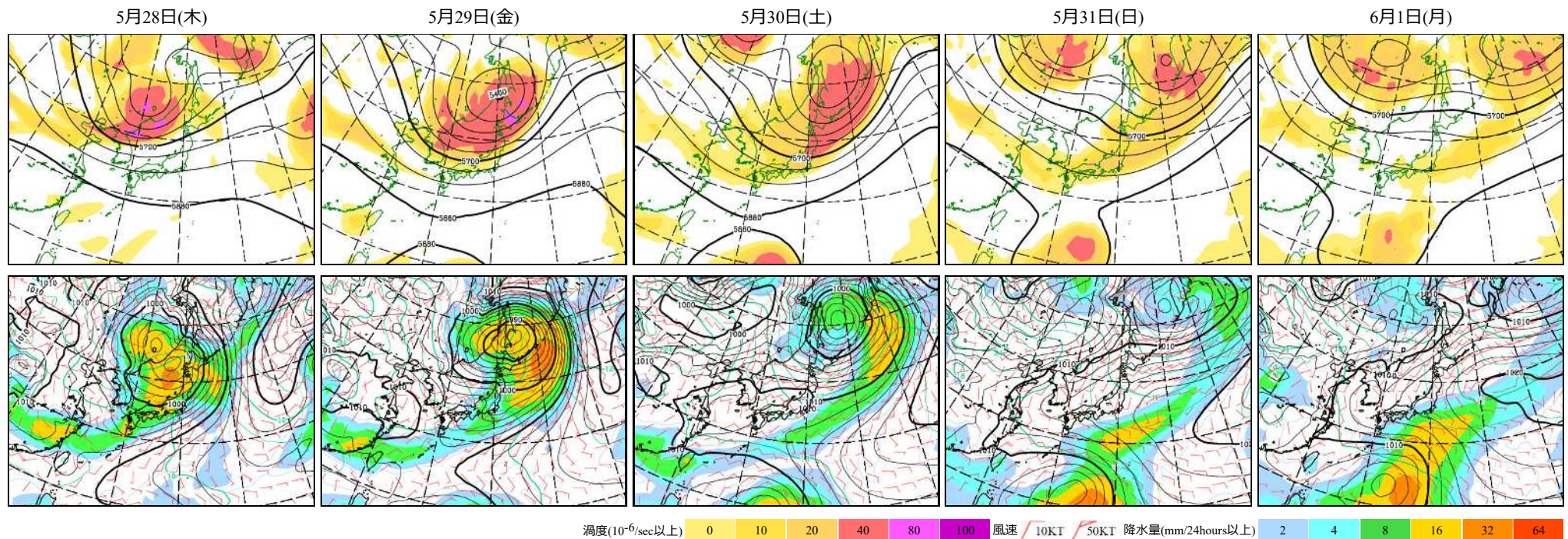
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

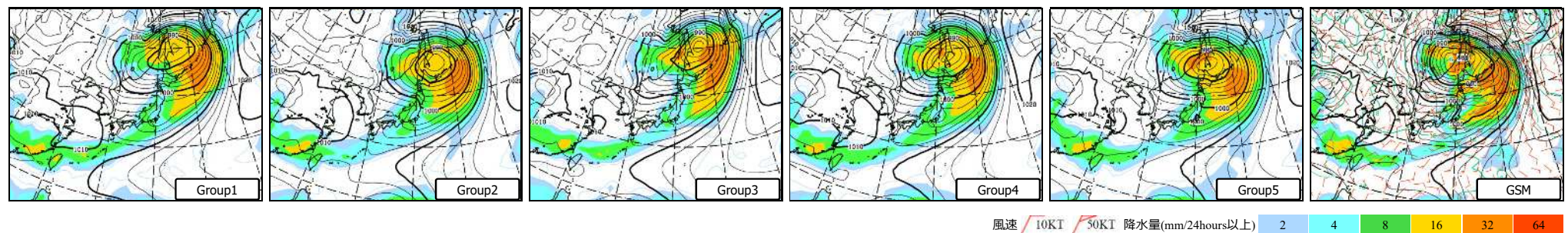


- 北日本は、28日から30日にかけて、曇りや雨の日が多い。31日から6月1日は、曇りまたは晴れとなる。
- 東日本と西日本は、28日から29日にかけては曇りや雨の日が多い。30日から6月1日は、曇りや晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月29日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のENSは、28日から30日にかけて、中国東北区からサハリン付近まで進んでくるトラフ（寒冷渦）が強まった。これに対応して、地上の低気圧の発達度合いも強まった。
- 期間前半の低気圧の発達度合いを強めるという点で、日本モデルと海外モデルは共通した初期値変わりを示している。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基本に考える。